

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第4号を下記のとおり発表したの送付します。

平成23年度病虫害発生予報第4号

平成23年7月1日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち	やや遅	並
	穂いもち	並	並
	紋枯病	並	やや少
	ヒメトビウンカ	—	やや多
	縞葉枯病	—	並
	ツマグロヨコバイ	—	並
	萎縮病	—	並
	ニカメイガ	—	並
	セジロウンカ	—	やや少
	トビイロウンカ	並	並
斑点米カメムシ類	—	やや多	
モ モ	せん孔細菌病	—	やや少
	灰星病	やや遅	並
	モモハモグリガ	遅	やや少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	晩腐病	—	並
	べと病	—	やや少
	うどんこ病	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	やや多
	チャノコカクモンハマキ	並	並
果樹共通	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	やや多
	褐斑病	—	やや多
	炭疽病	—	やや多
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	やや多
トマト	疫病	—	やや多
	葉かび病	—	やや少
(アブラナ科野菜) ダイコン	軟腐病	—	やや多
	キスジノミハムシ	—	並
	コナガ	—	やや少
野菜共通	ハスモンヨトウ	並	やや多
	アブラムシ類	—	やや少
	モザイク病	—	並
キ ク	白さび病	—	並
	ハダニ類	—	並
	アブラムシ類	—	やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月20～21日の巡回調査によると、本田での発生は確認されていない（発生圃場率の平年値：2.3%、初発生時期の平年値：6月5半旬）。

イ. BLASTAM-メッシュ岡山版（以下、ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件は、6月17日に中部地帯で広域的に出現した以外では、北部および中部では出現していない。ブラスタムの最新結果は下表のとおりである。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 補植用の苗は、伝染源となるので処分する。

イ. 箱処理剤をしていない圃場では、発生を確認後は速やかに防除を行う。箱処理剤を使用している圃場では、箱処理剤と同系統の薬剤を避ける。

ウ. 耐病性の弱い品種（コシヒカリ、あきたこまち、ヒノヒカリ、朝日）が広く作付けされており、現時点で未発生圃場でもこれらの品種では初発後の病勢の進展が速いので、早期発見、早期防除に努める。

エ. 本病は、曇雨天日が多い場合に発病が助長される。今後の気象変動に注意する。

表 アメダスデータから推測される葉いもちの感染好適条件の出現状況

(BLASTAMメッシュ岡山版)

地帯区分	北部地帯					中部地帯					南部地帯				
	上長田	千屋	奈義	古町	新見	久世	津山	福渡	和気	高梁	岡山	虫明	倉敷	笠岡	玉野
月・日															
6. 15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	●	●	-	-
17	△	△	△	△	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	-
18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	●	●
20	-	△	-	●	△	-	-	-	●	-	●	●	●	●	●
21	△	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	●	-	-	-
22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	-	●	△	△	-	-	-	△	-	-	-	-	△	△	-
27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●：感染好適条件 △：準感染好適条件 -：感染好適条件は現れなかった

(2) 穂いもち（極早生種対象）

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

- ア. 極早生種の生育はほぼ平年並である。
- イ. 6月20～21日の巡回調査では、県北部、中部における極早生種に葉いもちの発生は認めていない。
- ウ. BLASTAM-メッシュ岡山版（以下、ブラスタム）による葉いもちの感染好適条件は、6月17日に中部地帯で広域的に出現した以外では、北部および中部では出現していない。（前述）。
- エ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 本病は、曇雨天日が多い場合に発病が助長される。今後の気象変動に注意する。

(3) 紋枯病

予報内容

- 発生時期 並
- 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月20～21日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。
- イ. イネの茎数は早生種を中心に概ね平年よりやや少ない。
- ウ. 前年の発生は平年より少なかったため、越冬菌密度も平年より少ないと考えられる。
- エ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(4) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

- ヒメトビウンカ（第2世代幼虫）
- 発生量 やや多
- 縞葉枯病
- 発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市の予察灯における第1世代の初飛来は6月6日で平年（6月12日）より早く、6月1～5半旬の飛来数は32頭で、平年（9.6頭）より多かった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ヒメトビウンカ成幼虫の発生量は4.5頭で平年（8.5頭）より少なかった。
- ウ. 6月20～21日の巡回調査におけるすくい取り調査（20回振り）による発生圃場率は76.9%で平年（45.5%）より高く、成幼虫の発生量は4.5頭で平年（1.5頭）より多かった。
- エ. 縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカの本年の保毒虫率は6.8%であり、保毒虫率調査を再開した平成21年及び22年の保毒虫率の平均値11.6%より低い。
- オ. 近年の県南部における縞葉枯病の発生は、平年並で推移している。

(5) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

- ツマグロヨコバイ（第2世代幼虫）
- 発生量 並
- 萎縮病
- 発生量 並

- ア. 赤磐市の予察灯における第1世代の初飛来は6月10日で平年（6月5日）よりやや遅く、6月1～5半旬の飛来数は45頭で、平年（263.7頭）より少なかった。
- イ. 6月下旬の県予察圃場におけるすくい取り調査では、ツマグロヨコバイ成幼虫数は13頭で平年（46.3頭）より少なかった。

ウ. 6月20～21日の巡回調査における見取り・払い落としによる発生圃場率は16.9%で平成(9.6%)よりやや高かった。

エ. 6月20～21日の巡回調査におけるすくい取り調査(20回振り)では、成幼虫の発生量は0.6頭で平成(0.4頭)並であった。

オ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平成より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

カ. 萎縮病は平成同様発生を認めていない。

(6) ニカメイガ(第1世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて6月5半旬までに平成同様誘殺を認めていない。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯では5月9日に1頭の初飛来を認めたが(平成6月10日)、6月1半旬～5半旬に飛来は認めていない(平成16.5頭)。

イ. 6月20～21日の巡回調査における見取り・払い落とし調査による発生圃場率は1.2%で平成(5.7%)より低かった。

ウ. 6月21～22日の巡回調査におけるすくい取り調査(20回振り)では、成虫の発生量は0.08頭で平成(0.7頭)より少なかった。

エ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平成より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市及び真庭市の予察灯において6月5半旬までに飛来を認めていない。

イ. 6月20～21日の巡回調査において発生を認めていない。

(9) 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における6月1～5半旬の誘殺数は60頭で平成(53.4頭)並であった。

イ. 6月20～21日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)では、アカスジカスミカメの発生量は1地点当たり22.0頭で平成(21.0頭)並であった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平成より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月17日の巡回調査によると、発生圃場率は10.8%で、平年（23.6%）より少なかった。

イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 風雨によって発病が助長されるので、今後の気象に注意する。

(2) 灰星病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月17日の巡回調査では、一般圃場において果実での発生は認めていない。

イ. 県予察圃場における幼果の発病果率は8.0%で、平年（7.0%）並であった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) モモハモグリガ（第3世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける第2世代成虫の初飛来は6月24日であり、発生時期は平年（6月11日）より遅かった。

イ. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（93.2頭）より少なかった。

ウ. 6月17、20～21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.5%）より低かった。

エ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(4) ナシヒメシンクイ（第3世代幼虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は13頭で、平年（19.7頭）よりやや少なかった。

イ. 6月17、20～21日の巡回調査における新梢被害の発生圃場率は13.5%であり、平年（21.7%）よりやや低かった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(5) ハダニ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月17、20～21日の巡回調査における被害発生圃場率は10.8%で、平年（13.0%）並であった。

イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く降水量は平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) 晩腐病

予報内容

発生量 並
予報の根拠

- ア. 6月の降水量は全般的に平年並であったことから、幼果の感染も平年並と考えられる。
- イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) ベと病

予報内容
発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場（ネオマスカット）における初発生は6月6日で平年（6月6日）並であった。
- イ. 6月17日の巡回調査における発生圃場率は6.7%で平年（19.7%）より低かった。
- ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 梅雨時期の連続降雨により急に病勢が進展する可能性があるので注意する。

(3) うどんこ病

予報内容
発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月17日の巡回調査において、トンネル被覆栽培での発生を認めていない。
- イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(4) フタテンヒメヨコバイ（第2世代幼虫）

予報内容
発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月17、20～21日の巡回調査における発生圃場率は6.7%と平年（1.2%）に比べ高かったが、発生程度は軽微であった。
- イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(5) チャノコカクモンハマキ（第2世代幼虫）

予報内容
発生時期 並
発生量 並

予報の根拠

- ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける6月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（4.3頭）よりやや少なかった。
- イ. 6月17、20～21日の巡回調査において平年同様発生を認めなかった。
- ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高いとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(果樹共通)

(1) カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

予報内容
発生量 やや少
予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における6月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は23頭で平年(79.2頭)より少ない。

イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高いとされており、夜温が高いと本虫の飛来に好適である。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日播種)において、発病葉率は21.0%で平年(11.7%)よりやや高かった。

イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は31.6%で平年(51.0%)よりやや低かった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日播種)において、発病葉率は1.0%で平年(3.0%)よりやや低かった。

イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は63.2%で平年(39.1%)より高かった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日播種)において、平年同様発生を認めていない。

イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は47.4%で平年(22.8%)よりやや高かった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(4) 炭疽病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場(5月9日播種)において、平年同様発生を認めていない。

イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は10.5%で平年(6.8%)よりやや高かった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(キュウリ、ナス)

(1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月22～23日の巡回調査によると、露地、施設栽培のナスおよびキュウリでの発生量は平年並であった。
- イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(5月9日定植)において、平年同様発生を認めていない。
- イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は5.6%で平年(0.7%)よりやや高かった。
- ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 県予察圃場(5月9日定植)において、平年同様発生を認めていない。
- イ. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は16.7%で平年(27.4%)よりやや低かった。
- ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) ダイコン軟腐病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

- ア. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(2) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

- ア. 6月24日の季節予報によると、7月の降水量は平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 6月1～5半旬の県予察圃場(赤磐市)におけるフェロモントラップへの誘殺数は17頭で、平年(50.5頭)より少なかった。
- イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや抑制する条件である。

(野菜共通)

(1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップの誘殺数は55頭で、平年並（63.3頭）であった。

イ. 6月22～23日の巡回調査では、発生は認められなかった。

ウ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(2) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への飛来数は113頭で、平年（295頭）より少なかった。

イ. 県予察圃場（赤磐市）における6月下旬のキュウリ、トマトでのアブラムシ類の発生量は平年より少なかった。モザイク病は平年よりやや少なかった。

ウ. 6月22～23日の巡回調査によると、キュウリおよびトマトのアブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病の発生圃場率は、キュウリでは15.8%で過去9年間の平均値（5.5%）よりやや高く、トマトでは5.6%で平年（8.6%）よりやや低かった。

エ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、アブラムシ類の発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. モザイク病の発病株は伝染源になるので早めに除去し、アブラムシ類の防除を行う。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率量は26.1%で平年（27.4%）並であった。

イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 6月22～23日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（18.3%）より低かった。

イ. 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(3) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 6月1～5半旬の県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への飛来数は113頭で、平

- 年（295頭）より少なかった。
- イ． 6月22～23日の巡回調査によると、発生圃場率は7.7%で平年（15.5%）より低く、発生量は平年並であった。
 - ウ． 6月24日の季節予報によると、7月の気温は平年より高く、降水量は平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

なお、これまでご活用いただいていたテレホンサービスは、平成22年度をもって終了いたしました。これまで、永きにわたり、多くのご利用を頂きありがとうございました。病虫害発生予察情報は、引き続き、上記岡山県病虫害防除所ホームページをご利用ください。